

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年1月26日～2015年2月1日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年2月6日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【南オセチア】

##### ▼ロシアとの「条約」案(31日)

・ティピロフ「大統領」は、ロシア側から提出された「同盟と統合に関する条約」案を南オセチア「政府」内で検討する作業が完了し、修正案をロシア外務省に送付したと述べた。

### 2. 外 政

#### ▼リトアニア首相がグルジアを訪問(25日-27日)

・ブトケヴィチウス・リトアニア首相がグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相らと会談。グルジア・リトアニア・ビジネスフォーラムに出席。

・「ガ」首相との会談では、両国の政治・経済関係および国防、安全保障、農業、教育、文化の分野における協力、グルジアのEU・NATO加盟のプロセス、グルジアの被占領地域の状況などについて議論。両首相は経済協力協定に署名した。

・共同記者会見で、「ガ」首相は、グルジアの課題は5月にリガで開かれる東方パートナーシップ首脳会議で具体的な成果を提示し、信頼のおけるEUのパートナーとして成功例となることであると述べた。

#### ▼ベルチャシヴィリ外相が訪米(28日-2月4日)

・29日、「ベ」外相はEU東方パートナーシップ諸国および東欧諸国の外相とバイデン米副大統領との会談に出席。会談ではウクライナ危機、対露関係、グルジア情勢、エネルギーの分野における欧州の安全保障、5月にリガで開かれる予定の東方パートナーシップ首脳会議などについて議論された。

・「ベ」外相によれば、エネルギーの分野における欧州の安全保障に関し、既にプロジェクトの実施に関して成功した経験を持つグルジアの貢献が強調された。

・「ベ」外相は、「会談では、EUと米国はEU・NATOを目指すことを選択した国々に対する支援を強めねばならないと論じられた。困難にもかかわらずその選択を表明したグルジアは成功した改革国として取り上げられた」と述べた。

・リガでの東方パートナーシップ首脳会議に関し、ラトビア、ポーランドおよびスロバキアの代表団は、首脳会議で具体的な成果が示されることが重要であると述べた。また、査証自由化、連合協定の完全な批准、EUのパートナー諸国に対するEUの支援についての具体的な計画に

ついての合意の形成が重要であると述べられた。

・30日、「ベ」外相はアトランティック・カウンシル主催の会議「東欧諸国のための汎大西洋戦略」に、スロバキア、ポーランドの外相らとともに出席。

#### ▼NATO事務次長がグルジアを訪問(29日)

・ヴァーシボウ NATO事務次長がグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ジャンネリゼ国防相、バクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ウスパシヴィリ国会議長、与野党の代表者、イリア2世グルジア正教会総主教らと会談。グルジア軍の演習を視察。

・「ガ」首相との会談では、NATOの実質的パッケージの実施の見通しについて議論。「ヴァ」NATO事務次長は、グルジアはNATOの特別なパートナーであるとして、グルジアの民主・国防改革を称賛。

・実質的パッケージに定められた共同訓練センターのグルジアでの設置について、「ヴァ」NATO事務次長は、「センターはグルジアの治安・国防セクターの改革・強化を支援し、NATO諸国およびその他のNATOのパートナー諸国に開かれたものになる」「センターはグルジアに対するNATOの関与を証明するものになる」として、2015年末には稼働を始めると述べた。

#### ▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣とカラゼ・エネルギー大臣がウクライナを訪問(30日)

・ウクライナのアブロマヴィチウス経済大臣およびデムチシン・エネルギー石炭大臣と会談。エネルギー、農業、輸送、インフラなどの分野での協力の強化、EUとの関係などについて議論。

### 3. 内 政

#### ▼新内務大臣の任命(26日)

・ガリバシヴィリ首相が、ヴァフタング・ゴメラウリ氏を新しい内務大臣に任命。現在39歳の「ゴ」氏は2014年12月から第一内務次官。2013年春に内務次官に就任する以前、「ゴ」氏はイヴァニシヴィリ首相(当時)の警護隊に勤務していた。

#### ▼与党連合「グルジアの夢」事務局長の交代(26日)

・与党連合の執行委員会の会合の後、イラクリ・コバヒゼ氏が新しい事務局長に就任したことが発表された。「コ」氏は、与党連合は地方事務所や財務状況などに関して問題を抱えているとして、改革に取り組むと述べた。

#### ▼クヴィツィアニ氏の釈放(28日)

・2006年まで政府軍によって排除されるまでアブハジアのコドリ渓谷を支配していた「ク」氏は、2014年2月に

モスクワからトビリシに到着したところを拘束された。2014年11月に、政府に対する不服従および不法な武装集団の組織についてズグディディ市裁判所が有罪判決を下し、12年の禁固刑に処した後、「ク」氏は無実を主張しクタイシ市の控訴裁判所に控訴していた。

・司法取引により、刑期が既に服役した11か月に短縮され、釈放された。

#### ▼イヴァニシヴィリ前首相のインタビュー(28日)

・「イ」前首相はTVインタビューで、現政府は「非常に効率的である」として、ガリバシヴィリ首相が交代する必要はないとコメント。

・ウクライナ情勢について、ロシアの行動は欧州全体を脅かすものであり、グルジアはウクライナを支持せねばならないが、プロセスには可能な限り関与すべきではないと述べた。また、ロシアに対する現政府の「建設的な」姿勢を見直す必要はないと述べた。

・ラリの下落については、「特に心配することはなく、むしろ良いことである。世界の経済で起こっていることがグルジアにも反映されるのは当然のことだ」と発言。

・一部のNGOの代表者の活動について疑問を持っているとして、ロムジャリア「公正な選挙と民主主義のための国際社会」代表、ギガウリ Transparency International Georgia 代表、コジョリゼ青年法律家協会前代表（現・人権担当大統領補佐官）の名を挙げ、「彼らに関する興味深い調査を行なう」と述べた。

#### ▼Human Rights Watchのレポート(29日)

・Human Rights Watch がグルジアに関するレポートを発表。前政権関係者の相次ぐ訴追および2014年10月に国防相・軍関係者5名が汚職容疑で逮捕された件により、司法に対する政治的な影響についての疑いが強まったと述べている。警察の説明責任、女性の人権などに関する問題を指摘。野党政治家を襲撃した犯人が起訴されていないことや、地方選挙後にトビリシ市市庁舎の職員の一部が辞職を強制された事例などを報告している。

## 4. 経済

### ▼ラリの下落

・1月28日、対米ドルの為替レートは2004年4月以来約11年ぶりに2ラリを突破。1月30日には1米ドル=2.0576ラリをつけた。

・27日、ガリバシヴィリ首相はクヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、カダギゼ国立銀行総裁らと会談。会談後、「ク」経済・持続的発展大臣は「国立銀行が介入するいかなる必要性もない」とコメント。

・29日の閣議でガリバシヴィリ首相は、ラリの最近の下落はグローバルな要因によるものであり、周辺諸国および世界の多くの国々の通貨が米ドルに対して下落しているとして、「石油価格の下落もあり、ラリの下落によって物価の高騰は予期されない」と述べた。

・30日、カダギゼ国立銀行総裁は、通貨ラリの下落が物価の高騰の危険性をもたらすレベルに至ったため、国立銀行は通貨政策の引き締めを始めざるを得ないとして、「介入はマクロ経済の安定性を確保するのに必要な規模で段階的に行なわれる」と発言。通貨政策委員会は最近の12月の会合で政策金利4%の据え置きを決定している。また、「カ」中央銀行総裁は、5%の経済成長予測の引き下げが必要であると述べた。

### ▼経済自由度ランキング(28日)

・国際ヘリテージ財団の発表した経済自由度指数のランキングで、グルジアは177カ国・地域中22位。欧州の43カ国中11位。

### ▼BTK鉄道のグルジア内区間の試運転(29日)

・バク=トビリシ=カルス鉄道のグルジア国内の区間の試運転が行なわれ、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣とマンマドフ・アゼルバイジャン交通大臣が視察。「ク」大臣は、作業は予定通りに進んでいると述べた。

・「マ」アゼルバイジャン交通大臣はガリバシヴィリ首相と輸送セクターにおける二国間協力について会談。

### ▼2014年12月のGDP成長率(2月1日)

・国家統計局が速報値を発表。2014年12月の実質GDP成長率は前年同期比1.9%。2014年の実質GDP成長率は前年比4.7%。